

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190100107), 法人名 (社会福祉法人愛全会), 事業所名 (グループホームハートハウス南円山 プロヴァンス), 所在地 (札幌市中央区南10条西23丁目2-13), 自己評価作成日 (平成27年10月), 評価結果市町村受理日 (平成27年12月8日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0190100107-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年11月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大事にし、町内会の行事にはお声を掛けて頂き、盆踊りや運動会を入居者様と見学にきました。秋祭りでは町内会の方のあたたかい配慮により、子供みこしがホームに立ち寄り、入居者様は可愛らしい子供たちの姿に手作り団扇を片手に声援を送られていました。また、入居者様が公園を散歩中には、ご近所の方が気軽に声を掛けて下さいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市中心部である中央区の南西にある旭ヶ丘の住宅街に立地している。周辺は緑豊かな自然に恵まれた閑静な住宅街である。3階建ての瀟洒な洋風の建物で、1階は多目的利用の会議室があり、2階と3階は2ユニットのグループホームである。1階の会議室は町内会の会議や地域のカルチャー教室など地域住民に開放している。2階はプロバンス3階はモナコという名称と呼ばれ、光り輝く明るい南仏の趣を漂わせている。建物の前面は子どもたちや市民が憩う公園があり、裏側の雑木林にはリスが訪れるなど自然豊かな環境である。運営法人は医療法人を母体とした社会福祉法人で多様な介護事業を手掛けており、地域での信頼が厚い。一例をあげると運営推進会議には、町内会役員、民生委員、包括センター、複数の家族、利用者などが毎回出席し、意見や要望を聞く機会を設けている。会議で相続や終活などの話題が出て、行政書士を招き町内会に広報をだし、地域住民も参加し勉強会を開催するなど地域にも貢献している。地域密着型サービス事業所として、ハートハウスという名称のように地域に根差し、支え合いながら地域の心臓部の働きを今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and evaluation criteria.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、交流を深め、支え合う暮らしの中で、一日一笑」をカンファレンスなどで理念に基づいてケアをしているか確認している。また、その人らしい生活が成り立つよう、理念をケアプランに繋げ支援しております。	グループホームの理念をパンフレットや1階の集会室、2階・3階の廊下の掲示板に掲示している。また、理念に基づいた職員の行動基準とともに掲示している。理念は毎月のカンファレンス時に会議資料の上部に掲載し、会議の始めに全員で唱和し実践に活かしている。	
	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動には積極的に参加しております。職員が町内総会に参加し、ご入居者様も一緒に運動会・盆踊り・秋祭り・町内清掃・子育てサロン等に参加しております。	町内会に加入し、職員が毎年町内会総会に参加し、利用者は運動会・盆踊り・秋祭り・町内清掃・子育てサロンなどの活動にも積極的に参加している。事業所の1階の集会室は多目的交流室として町内会の会議や地域の絵画教室に開放し、利用者や職員もともに参加し楽しんでいる。	
	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活のご様子を運営推進会議や消防訓練に参加して頂き、認知症の方の理解を深めて頂く事に努めております。昨年は地域の中学校で介護について中学生とディスカッションを行いました。		
	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、生活の様子や事故報告をお伝えすると共に、地域の方や消防の方々にも意見を頂き、サービスの向上に活かしております。	年6回包括センター職員・町内会役員・民生委員・家族・利用者などが参加し、定期的に開催している。利用者の生活の様子や事故報告、事業室からのお知らせを伝えるとともに、参加者の意見や要望を聞いている。今話題の相続の事や終活などについても取り上げ、学習会を行っている。	
	5	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換し、サービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	札幌市・中央区の各連絡会議などに出席し、包括センターや他の事業所との交流や情報交換を行い積極的に協力関係を築いている。区の担当部署に毎月の利用状況報告時に相談なども行っている。	
	6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修・マニュアルを通し、職員一同日頃より努めています。研修年間計画の中に研修があり、職員は必ず参加しています。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、職員は外部・法人や施設の内部研修を受講し研修後はカンファレンス時に伝達研修を行っている。声の大きさや命令口調等を含め年2回接遇チェック表を記入することで身体拘束について振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止システムによる研修会にスタッフに参加し理解浸透に努めています。精神的な虐待もあることを理解し、より良い接遇を心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により理解を深めるように努めています。必要性がある場合にはその都度関係機関と協力していけるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置やご家族へのアンケートを行い、意見要望を取り入れ反映させています。またご入居者様、ご家族様から気軽にご意見を言うていただくような雰囲気作りを努めています。	意見箱の設置や年1回の家族へのアンケートを実施し、意見や要望を取り入れ運営に反映させている。ホーム便りを毎月発行し利用者の生活状況と個人欄で個々の利用者の様子を知らせている。クリスマス会や誕生会など家族が集まる時に話せるような雰囲気作りをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。	月1回のユニットのカンファレンス時やグループホーム管理者会議の場で、意見や要望を伝える機会を設けている。年2回全職員が自己申告書を作成し、管理者と個人面談を行い意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得(自己研修)時に時給アップをおこなっています。年に2回人事考課を行い、自己評価を自身の実績を基に、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた(新人・現任・計画作成者・管理者)内部研修を行うと共に、中央区でのスタッフ研修や外部での研修の情報を収集し受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区連絡会の参加を始め、法人グループホームとの勉強会、委員会、各ユニットへの実習研修を行い、互いに意識を持ってサービス向上に活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前にご本人とお会いし、ご家族様を交えてお話し、馴染みの関係を入居前に少しでも築ける様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお話しさせて頂いています。出来る限り連絡を取りお話しする事で、ご家族様の心情を伺えるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の思いや現状を把握し、ご家族様が安心して頂けるように努め、ケアプランに活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役がご本人であることを職員間で強く認識し、ご本人のできる事に着目し、無理のないように行って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは面会時、電話連絡などで常に連絡をさせて頂き、共にご本人の生活の支えになれる様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活習慣を変えない様友人の来訪や外出をご家族様に限らず、職員も一体となり、支援しています。美容室や買い物、ご家族様との会食の場を継続し続けるよう努めています。	利用者は1名を除き地元出身者のため、家族・友人・知人が訪ねてくることが多く、居室でゆっくり過ごしたり会食することもある。買い物や外食、馴染の場所などへ家族と一緒に外出することも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士が交流を持てるよう、レクリエーションや外出の場を作っています。また、個々での交流の場も大事にして頂ける様環境作りにも努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、病院へのお見舞いや関係機関を通じ、ご家族へ挨拶などさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動を観察する事でご本人の希望を聞き入れ、思いを引き出す様に努めています。	入居時に家族にアセスメントシートを渡し記入してもらっている。過去の状況を踏まえて、年2回アセスメントを行い、一人ひとりに寄り添い、話を聞き、動作や表情などから暮らしの希望や意向の把握に努めている。情報は会議で話し合い、本人の意向に添えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集に日々努めています。また、ご入居時にはケアマネジャーなどから過去の様子を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言動・行動から生活リズムを作って頂ける様、努めています。新しい発見があった時は記録に残し、申し送りにて職員全員が現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の気持ちを聞き出し、ケアカンファレンス時には事前の聞き取り(ご家族・医師・看護師)を行い、より良い計画書作成に努めています。	介護計画はカンファレンス時に担当職員を中心に検討し、利用者家族の意向や医療関係者の意見を聞き、介護支援専門員が作成している。月1回モニタリングを行い、3ヵ月毎に定期的にモニタリングの評価を行い、現状に即したプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケアプランを基に記録し、他申し送り・気付きノート・家族連携表を、モニタリング・評価や必要に応じ、記録に用いたアセスメントを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族・主治医・訪問看護・町内会などと連携をとり取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わり場として、町内会活動には、積極的に参加させて頂いています。また事業所内で行われるボランティア等も近隣の方々に参加して頂き、関係づくりに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師との密な医療連携を行う事で、ご本人・ご家族様が安心した受診を継続できる様に努めています。	月2回提携医療機関の医師の往診と週1回訪問看護があり、皮膚科や歯科はその都度往診がある。入居前からのかかりつけ医には家族が同行し受診し、受診結果を得て、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告しています。また、緊急時以外でも日頃から相談出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、医療機関に介護情報を書面、口頭で提供しています。またご本人の状態に合わせた退院に向け、医療関係相談員・ご家族様と、相談や話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、医療連携を十分に活用し、ご本人やご家族様にとって最良のケアを行う様に努めています。	契約時に「重度化した場合に係る指針」や「看取りに関する指針」などで、本人や家族に説明をしている。重度化した場合は、連携している医療機関を活用し、本人や家族と相談しながらチームケアで支援を出来るように、職員間で話し合い検討している。終末期の看取りケアについて内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での緊急対応研修を定期的に行っています。また事業所内での連携を用いた緊急対応に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の実施を基に、入居者様・ご家族様・近隣の方々を交えた避難訓練を実施しています。	日々防災点検表で1日5回の点検を行っている。地域の方々の協力を得て、年2回夜間も想定した火災訓練を行っている。自然災害を含め、法人作成の防災マニュアルの下に、備蓄や緊急時の避難体制を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が安らげる声かけを心掛けています。また、ご本人の羞恥心に十分配慮しケアにあたっています。	言葉使い・挨拶・身だしなみ・態度などについて、年2回職員が個々に接遇チェック表をつけ、振り返りをしている。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような対応やケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との信頼関係を築く努力を、日頃より心掛け、ご本人が訴えやすい雰囲気づくりをしています。また個人の状態に合わせ、気持ちを読み取る努力に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意思意向を大切にすることを心がけた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気ない声かけをする事で、整容をして頂いています。定期的にビューティーボランティアや訪問美容室にも参加し、お洒落心を大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のふれあいから、ご本人の嗜好を聞き出すことに努めています。家事を仕事として行う方、楽しみとして行う方、それぞれに応じた声かけをしています。	グループホーム全体の献立は栄養士が作成し、野菜切りや盛り付け、配膳、後片付けなどは利用者が進んで家事を手伝っている。週1回利用者の好みのメニューの日があり、買い物から準備、調理まで職員と共にいき、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の物や入居者様の嗜好を取り入れ、彩りや盛り付けにも工夫し、楽しく食事して頂ける様日々努めています。水分量の摂取は摂取しやすい工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きへの声掛け、準備などを行い歯磨きをして頂き、義歯の方への毎晩の消毒も行って頂いております。また必要に応じて、訪問歯科衛生士による口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、個人の排泄パターンにあわせたトイレへのお誘いなどを行っています。排泄パターンを把握した上でオムツから布パンツ使用を試みています。	排泄は、排泄チェック表に記録し、利用者個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導や声掛けを行っている。ほとんどの利用者が入居前はリハビリパンツなど使用していたが、布パンツに替わるなど排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を常に意識しています。また日頃よりレクリエーションを通じて、体を動かす事で血行を促しています。医師へ相談し下剤調整もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺ったりご本人の予定(受診・外出)にあわせ、入浴をして頂く様につとめています。	入浴は週2回以上、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援をしている。同性介助の入浴や外出・病院受診前に希望する場合は、個々人にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援をしている	ご本人の生活リズムを把握する事で、リズムが崩れない様休息時間を取って頂いたり、定期的な巡回にて、室内温度調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認を始め、必要に応じ薬剤師からの指導を受けています。また定期的に薬に関する研修を行い、薬に関する知識を得、日々のケアに活かしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々笑顔のある生活が送れる支援をしています。個人個人の特性を認識する事で、その人の喜びとは何かをアセスメントし、ケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れることを日々の目的とし、出来る限りの外出を支援しています。また、外出行事も定期的に行い、出かける事の楽しさを味わって頂いています。	緑が多い向かいの公園や木立に囲まれた周辺の住宅地の歩道を散歩や運動を兼ねて外気に触れる機会を工夫している。買い物に行ったり月1回の定期的な外出行事で、家族と一緒に花見やゆにガーデン、小樽水族館などへ出掛けたり、歌手のコンサートに行ったりと外出を楽しむ支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布管理されている方に関しては、買い物をされた時には職員同行のもと、ご自身で支払われました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ホームの電話を使用して頂いています。なかなかお会いできないご家族様や友人への手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合った花を飾り、換気や室温・湿度の調整、トイレ付近でのにおいに配慮して、居心地の良い生活が出来る様に配慮しています。	居間や食堂、廊下などの共有スペースは壁紙や絵画・モビール・花などそれぞれ飾られ、各ユニットは違った雰囲気を感じられる。居室の壁には各利用者が選んだ花の額を名札代わりに飾っている。居間には広く大きな窓があり、前面の公園の木々が見渡せ、採光や風通しも良く、くつろげるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人が居心地の良い環境を作る様に努めています。ちょっとした空間で、交流が出来るよう、その時に応じて椅子などを提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人の時間を大事に過ごせるよう、家具配置や危険防止などを、ご家族の協力を得て行っています。	居室は各部屋の壁紙の模様や色調が異なり収納用の大きなクローゼットがあり、室内はすっきり整頓している。利用者は使い慣れた家具や好みのものを配置し居心地良く暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・バス・洗面所、多目的室など共有で使用する場所を含め、絵や文字で理解できる工夫を行い、ご本人に理解して頂き、体で覚えて頂ける様、見守りケアを重視しています。		